

2 国 語

国 語

注 意

- 1 問題は **1** から **5** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は五〇分で、終わりは午前九時五〇分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙にHB又はBの鉛筆（シャープペンシルも可）を使って明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは特別の指示のあるもののほかは、各問のA・I・U・Eのうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 6 答えを記述する問題については、解答用紙の決められた欄からはみ出さないように書きなさい。
- 7 答えを直すときは、きれいに消してから、消しくずを残さないようにして、新しい答えを書きなさい。
- 8 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に書き、その数字の ○ の中を正確に塗りつぶしなさい。
- 9 解答用紙は、汚したり、折り曲げたりしてはいけません。

1

次の各文の――を付けた漢字の読みがなを書け。

- (1) 展望台から大海原を眺める。
- (2) 学校の図書館で借りた本を返却する。
- (3) 柔道の大会に出場するために鍛錬を重ねる。
- (4) 小学校の恩師に心を込めて丁寧^にに礼状を書く。
- (5) 鑑賞教室終了後、オーケストラの美しい演奏の余韻に浸る。

2

次の各文の――を付けたかたかなの部分に当たる漢字を楷書で書け。

- (1) 矢を放つて的の中心をイ^る。
- (2) 豊かな自然に囲まれてくら^す。
- (3) 湖に白鳥のムれ^が舞い降りる。
- (4) 新鮮な魚を漁港から市場までユソウ^する。
- (5) 人物画のハイケイ^にに描かれた空の青さに心を奪われる。

3

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

高校三年生の「私」は、同級生であるサキ、佐和子、弥生の三人と映画部に所属している。「私」たちは四人で映画を作り、『リーラ・ノエル』というチーム名でコンクールに応募していた。四人は十二月になっても、放課後欠かさず部室に集まっていた。

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(瀬那和章「わたしたち、何者にもなれなかった」による)

〔注〕 コンテ——映画の撮影台本。

〔問1〕 私はその隣で、チクチクと一定リズムで回るファンの音に苛^{いらだ}立ちながら、世界史の参考書にマーカーを引いていた。とあるが、この表現

について述べたものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 受験に向けた勉強が進まず神経質になっている「私」の様子を、多角的に分析して捉え、音と色彩を描き分けて対照的に表現している。

イ 勉強がはかどらないことで、自分自身に腹を立てている「私」の様子を、時間の経過とともに順序立てて分かりやすく表現している。

ウ 勉強に集中することができずにあせりを感じている「私」の様子を、擬音語を用いて心情と重ねることで、印象的に表現している。

エ 参考書を前にして平静を保つことができない「私」の様子を、味気ない部屋の雰囲気とともに描くことで、誇張して表現している。

〔問2〕²⁾ 「そんなの、夢物語だよ。」とあるが、私がサキにこのように言ったわけとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア いずれ社会人となれば、四人で映画の撮影を続けるのは難しいと思っていることを、将来に対して楽観的なサキに伝えたかったから。

イ 映画を撮り続けるためには、撮影の体制を充実させる必要があるということを、カメラを回すことに必死なサキに言いたかったから。

ウ 四人がそれぞれの道に進むことを決めた今、現状維持のままではいかかと抱いた疑問を、思い切ってサキに投げかけようと思ったから。

エ 日常の様子をカメラに収めるサキの姿から、高校生による映画制作の限界を感じ取り、映画部の解散をサキに提案しようと考えたから。

〔問3〕 涙がこぼれた。止まらなくなった。とあるが、このときの私の気

持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 四人の仲間の関係について心配していたが、賞の受賞により状況が劇的に転換し、親密な友人関係を結ぶことができると喜ぶ気持ち。

イ 大丈夫というサキの言葉により、今後撮影する映画は高い評価を得ると確信し、監督として将来やっていく手応えを感じている気持ち。

ウ 弥生と佐和子が受賞を喜びながらも、連絡をもらった際のサキの行動を責めていることから、四人の関係が崩れそうで悲しく思う気持ち。

エ サキの言葉が現実のものとして心に響き、自分たちが成し遂げたことに改めて誇りをもつとともに、その結果に対して感動する気持ち。

〔問4〕 サキだけは、計画通りに事が進んだというように笑っていた。と

あるが、この表現から読み取れる「サキ」の様子として最も適切なのは、次のうちではどれか。

ア 最優秀賞の受賞によって、仲間からの信頼を回復することができるだろうと考え、コンクールへの応募は大成成功だっと思っている様子。

イ 受賞した賞は単なる通過点であり、自分の将来の希望を実現するため、仲間と別れて映画の撮影をすることができると思んでいる様子。

ウ 今回の賞を目標に据えて部の活動が続け、応募した作品に対して自信をもっていたことから、大きな賞を受賞した状況に満足している様子。

エ 以前から賞には興味がなく、思い出として映像に残したいと思っていた仲間の姿を撮ることができ、思い残すことはないと感じている様子。

〔問5〕 私たちはこれから先も映画を撮り続ける。とあるが、このときの

「私」の気持ちに最も近いのは、次のうちではどれか。

ア 勉強に集中できない自分の将来を案じて、『リーラ・ノエル』の活動に時間を費やしてきた生活を後悔していたが、賞の受賞によって、同じ思いをもつサキとだけは一緒に映画を撮影したいと思う気持ち。

イ 自分たちの未来について抱いていた不安が、賞の受賞による喜びを通して自信に変わり、『リーラ・ノエル』として四人で映画の撮影を続ける未来を思い描いて、共に活動していこうと思う気持ち。

ウ 賞の受賞によって周囲から喝采を浴びたことで、四人それぞれが自分の撮りたい映画を個々に撮るようになって、『リーラ・ノエル』という思い出の場所があれば、生きていくことができると思う気持ち。

エ 目標としていた賞を受賞したことで、高校卒業後に進む予定だった進路を変更し、三年間続けてきた映画部の活動を心の支えとして、四人で新たに設立した『リーラ・ノエル』で仕事をしていこうと思う気持ち。

4

次の文章を読んで、あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに〔注〕がある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

(福岡伸一「動的平衡3」による)

〔注〕 フェルメール——十七世紀のオランダの画家。

凌駕^{りょうが}——他をしのいで、その上に出ること。

アルゴリズム——問題を解決するための手法・手順。

〔問1〕 つまり、ありていに言えば、商行為とは、使ったエネルギーよりも作り出した秩序により大きな価値を創造すること、そしてその

秩序が再び無秩序に還^{かえ}るまえに、その状態を転移することである。

とあるが、「使ったエネルギーよりも作り出した秩序により大きな価値を創造すること」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 乱雑化に抗うために使う労力よりも、普遍的な原理を創造すること

イ 乱雑さの中から秩序を創出するために消費したエネルギーよりも、

ウ 創出させた秩序によって、大きな利益を生み出すということ。

エ 宇宙の大原則に挑む労力よりも、混ぜることで高まった価値が導く秩序によって、小さな労力で乱雑化を回避できるということ。

オ エントロピー増大を止めるために使う時間よりも、ビジネスモデルの考案によって、効率的な秩序の創造ができるということ。

〔問2〕 この文章の構成における第三段の役割を説明したものとして最も

適切なものは、次のうちではどれか。

ア 前段で述べた内容を受けて、乱雑化という課題に対する具体的な解決方法を示すことで、筆者の論旨を理解しやすくしている。

イ 前段で述べた内容を受けて、生命の本質に関わる自説の根拠となる事例を並べて紹介することで、論の妥当性を主張している。

ウ 前段で述べた内容を受けて、エントロピー増大の法則について順序よく整理しながら説明することで、問題の所在を明らかにしている。

エ 前段で述べた内容を受けて、筆者の主張である生命の維持につながる新たな視点を提示することで、論の展開を図っている。

〔問3〕 動的平衡を基本原理として、(大きく) 変わらないために(つね

に小さく) 変わり続けてきたからだ。とあるが、「(大きく) 変わらないために(つねに小さく) 変わり続けてきた」とはどういうこと

か。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 生命が、自然の摂理に打ち負かされないために、強固な防御体制を少しずつ構築していくことで、自らを危機から守ってきたということ。

イ 生命が、宇宙の大原則に支配されないために、少しずつ分解と更新を行い、自らの内部にエントロピーを蓄積させ続けてきたということ。

ウ 生命が、致命的な秩序の崩壊を招かないために、自らを柔軟にして分解や更新を少しずつ行い続けて、釣り合いをとってきたということ。

エ 生命が、自らの大規模な崩壊を防ぐために、個体の構成要素を不変にすることで、危機を乗り越える強さを徐々に備えてきたということ。

〔問4〕⁽³⁾ そして個々のピースは、いずれも必ずしも鳥瞰的に全体像を

ちやうかてき

知っている必要はない。とあるが、筆者がこのように述べたのはなぜか。次のうちから最も適切なものを選べ。

- ア 生命体を構成する個々のピースは、周囲のピースと連携して絶えず作り直されながら、全体として相補的に平衡を保っているため、個々のピースがその生命体全体を把握している必要はないと考えているから。
- イ 生命体を構成する個々のピースは、近傍と補完的な関係性を持ちながら、脳からの指示・命令を直接受けて動いているため、個々のピースがその指示系統全体を把握している必要はないと考えているから。
- ウ 生命体を構成する個々のピースは、ジグソーパズルのピースのように固有の形によって位置が決められ、平衡を保っているため、個々のピースが自分の立場を把握している必要はないと考えているから。
- エ 生命体を構成する個々のピースは、それぞれに割り当てられ固定された役割を果たすことで、全体の機能を維持しているため、個々のピースがその役割の意味を把握している必要はないと考えているから。

〔問5〕 国語の授業でこの文章を読んだ後、「理想の組織」というテーマ

で自分の意見を発表することになった。このときにあなたが話す言葉を具体的な体験や見聞も含めて二百字以内で書け。なお、書き出しや改行の際の空欄、や。や。や」などもそれぞれ字数に数えよ。

A

5

次のAは、松尾芭蕉まつお ばしやうに関する対談の一部であり、Bは対談中で話題
にしている芭蕉の言葉が引用されている「三冊子さんざんし」の原文である。
で囲った文章はBの現代語訳である。これらの文章を読んで、
あとの各問に答えよ。（*印の付いている言葉には、本文のあとに
〔注〕がある。）

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

掲載許諾申請中

B

掲載許諾
申請中

〔新編 日本古典文学全集〕による

（井上靖、山本健吉ほか「歴史・文学・人生」による）

掲載許諾申請中

掲載許諾 申請中

(森田峠「三冊子を読む」による)

〔注〕

三冊子——江戸時代の俳人服部土芳が著した俳論書。

宗祇——室町時代の連歌師。

連歌——「俳諧の連歌」のこと。和歌の上の句と下の句を互いに詠

み続けていく歌の形式。

貫道するものは一なり——(芸道を)貫いているものは同一である。

連句——「俳諧の連歌」の別称。

懐紙——連歌を書き留める和紙。

滓——良い所や必要な部分を取り去ったあとの残りの部分。

西鶴——井原西鶴。江戸時代に活躍した文化人。

神祇——天の神、地の神のこと。

釈教——仏教の教え。

逢坂——逢坂山。現在の滋賀県にある。

淀の川舟——淀川を伏見から大阪へ下る川船。

〔問1〕 ええ、わたくしもね、この四人の選択に芭蕉の一つのある大事な

心の傾向が、はっきり表れていると思います。とあるが、「芭蕉」の

「心の傾向」を説明したものととして最も適切なものは、次のうちでは

どれか。

ア 芭蕉は利休が作った茶室や庭に芸術性を見いだしており、茶そのものではなく、利休の残した様々な作品について高い価値を認めている。

イ 芭蕉は利休の残した茶の文化の精神性を尊重しており、西洋人と東洋人の芸術観について比較する上で、利休が適していると思っている。

ウ 芭蕉は自分の目標として利休の名をあげており、他の三人の先達と比較をすることで、利休の芸術性の高さを広く伝えようとしている。

エ 芭蕉は四人の先達の一人に利休をあげており、有形のものだけではなく、主客で茶を飲み合うといった無形のものも芸術として捉えている。

〔問2〕 よほどちゃんとした鑑賞というのが行われないうとできない。とあるが、ここでいう「ちゃんとした鑑賞」とはどういうことか。次のうちから最も適切なものを選べ。

ア 連歌・連句への理解があり、句を進めていくために、参加者同士が他者の発句の内容に加えて相手の意図や思いをくみ取っていくこと。

イ 連歌・連句への理解があり、参加していない第三者に対して詳しく説明するために、相手の創作した作品を正確に記憶しておくこと。

ウ 連歌・連句への理解があり、作品の良い点や改善点を明確に伝えるために、発句の特徴について理論的に筋道を立てて批評すること。

エ 連歌・連句への理解があり、後世の人に連歌・連句のすばらしさを残していくために、その場の雰囲気や発句を詳細に記録しておくこと。

〔問3〕消えるんです。そこなんですよ。そこをね、わたしは一致点の一番大きな根本だと思う。という山本さんの発言が、この対談の中で果たしている役割を説明したものとして最も適切なのは、次のうちではどれか。

- ア 井上さんの、茶の文化に関する発言について疑問を抱き、それまでの対談の内容と別の事例を示すことで、具体的な発言を引き出している。
- イ 井上さんの、一期一会に関する発言に賛同し、自分のもっている考えと共通する内容について強調することで、話題を焦点化させている。
- ウ 井上さんの、連歌・連句に関する発言を不思議に思い、新たな視点として自分の独自の考えを述べることで、対談の内容を深めている。
- エ 井上さんの、発句の鑑賞に関する発言に共感し、感覚的な言葉を用いて自分の解釈との違いを示すことで、話題の転換を図っている。

〔問4〕「東海道の一筋も知らぬ人、風雅に覚束なし」とあるが、 の現代語訳において「風雅に覚束なし」に相当する部分はどこか。次のうちから最も適切なものを選び。

- ア 転換する場合が多い
- イ 本意にするのがよい
- ウ 旅したことのない
- エ 俳諧の方でも頼りない

〔問5〕 Bの中の――を付けたア、エのうち、現代仮名遣いで書いた場合と異なる書き表し方を含んでいるものを一つ選び、記号で答えよ。